

伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画(案)について

パブリック・コメントの結果

1 パブリック・コメント実施の概要

(1) 募集方法

伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置基本計画(案)を市ホームページに掲載するとともに、下記の場所での閲覧により、市民からの意見募集を行った。なお、意見募集に当たっては、市広報、CATV文字放送及び市ホームページで案内を行った。

【閲覧場所】伊勢市教育委員会事務局教育総務課(小俣総合支所2階)、伊勢市役所(本館1階市民ホール、本館2階総務部総務課)、二見・小俣・御園の各総合支所地域振興課、神社・大湊・宮本・浜郷・豊浜・北浜・城田・四郷・沼木の各支所、伊勢図書館、小俣図書館、生涯学習センター(いせトピア)、市民活動センター、二見生涯学習センター、市営庭球場、小俣総合体育館、御園B&G海洋センター

(2) 意見募集の期間

平成23年12月15日(木)～平成24年2月17日(金)

(3) 意見募集の結果

意見の応募者数18名(郵送1名、Eメール17名)【38件】

2 意見の内容

市民から寄せられた意見の概要は次のとおり。

適正規模化・適正配置基本計画の進め方について	
寄せられた意見(要約)	
1	市教育委員会は、子どもたちの学校生活や地域の活動を十分把握した上で、統合の時期や統合の場所を話し合いの中で決定していくべき。
2	計画案を一方向的に決定してから、地域の中で問題点を協議する進め方には反対である。
3	小規模校のメリットやデメリットについては、もっと現場を把握した上で議論すべき。
4	今一色小学校の子どもたちと地域住民の繋がりを行事などを通じて認識したり、周辺の道路事情などを歩いて確認するなど、行政と保護者や地域住民の代表が地域の現状を見ながら意見交換をして欲しい。

5	将来的には統合計画は必要だと思うが、意見交換をしながら再度時期については決めて欲しい。
6	「子どもたちにとってより良い教育環境を」という美辞麗句の陰で、その実、初等教育にとって不可欠な地域コミュニティを破壊し、少人数教育の利点を奪うという、まったく非教育的なことを強行しようとしている。
7	学校の運営は、子どもやその保護者だけでなく、地域住民が深く関わっている。その地域住民の多数が反対であるのに、計画を強引に推し進めるのか。
8	適正規模化について、地域説明会において、小規模校を否定しているものではないと言いながら、一律に適正規模化を提言していることに矛盾がある。また、「子どものため」を考えるならば、もっと魅力ある提言を行って欲しいと思うし、説明側の信条が伝わらない。
9	地域の結びつきが強い学校の統廃合は、地域の実情には合わない。大規模校になれば、人任せ、学校任せの風潮が強くなり、地域の連携や協働は希薄になる。
10	新たな学校で地域住民との協働や連携を進めていくより、現状の環境をさらに強化・充実していく方がよいと思う。
11	小中学校の統合の必要性について、何が何でもやらねばならないことは無いこと。また、本当にそれが最善なのか、今一度、一考願いたい。
12	子どもたちが安全で、親の私たちも安心して通わせることのできる統合計画であって欲しいと思う。

13	佐八小学校は、小さいけれどもあたたかい学校で廃校になることには反対。存続させて欲しい。
14	小学校は小規模が望ましいと思うので、佐八小学校はこのまま存続させて欲しい。
15	統合の案だけでなく、避難所の具体案、通学路整備の具体案を出して欲しい。
16	統廃合ありきで拙速にことを進めることなく、保護者や地域の皆さんと、学校の存続も含めて十分議論した上で結論を出すようお願いする。
17	財政面も含めた必要な情報を出して正直に話し合うことが必要だと思う。
18	統廃合における策定委員会の提言には、中学校は複数の小学校で構成し、交流し刺激し合うのが望ましいと書かれていたと思うが、今一色小学校がなくなると二見地区は一小学校一中学校になってしまう。
19	そもそも小学校の統廃合は、いかなる財政事情にあっても、複式学級すら維持できないような場合以外に軽々しく論ずべき問題ではない。
20	二見・今一色地区の保護者として「説明会」に参加してきたが、以下の点に不満を感じる。 地域の実態・事情を省みようとしない。 地域社会（コミュニティ）のことを理解していない。 地域防災の観点が欠けている。
21	五十鈴中学校、修道小学校の卒業生として、小学校、中学校とも母校がなくなるのは、とても悲しくつらいことです。どちらも伝統のある学校であり、地域性のある特徴的な学校です。ぜひ、存続をさせて欲しい。

統合校の設置場所について	
寄せられた意見（要約）	
1	早修・中島・佐八小学校の統合校の設置場所は、中島小学校ではなく、早修小学校が良いと思う。
2	中島小学校の校舎は、かなり古い校舎だと思う。安全性は問題ないとのことだが、災害時(特に宮川の洪水時)等の避難場所として考えるなら、中島小学校より早修小学校の方が安全だと思う。統合校の設置場所の安全性は十分検討すべき。
3	早修小学校を統合場所とした場合、教室の不足に関してはワークスペース空間をリフォームし、教室に当てれば良いと思う。また、早修小学校は校庭の質(水はけが良い)、緊急時の迎車の導線(校庭に車が入り待機可能、通り抜けが出来る)等々、少し閉鎖的で目の届きにくい場所にある中島小学校より優れていると思う。しかも、早修小学校の方が周辺の環境も良く、校舎からのロケーション共に優れていると思う。
4	多数決で統合場所を決めるのではなく、子どもたちの安全性を第一に考え、責任を持って熟慮して欲しい。
5	新しく小中学校を建てる場合、大地震による津波被害を考慮して高台に移転する若しくは校舎を高層化することには賛同する。しかし、それ以前に既存学校と新しく建てた場合とで、どのようなリスク度合いに変化したか考えて欲しい。
6	豊浜地区においては、どの場所に小学校があっても津波被害を受けると思う。唯一の津波からの避難所である学校が家の近くに無いとダメだということ。
7	子どもたちの命の安全を最優先するならば統合場所を中島小学校ではなく早修小学校にするべき。

8	統合する小学校の場所が中島小学校になることには疑問を感じる。万が一のことを考えると、早修小学校では避難訓練の時にも宇治山田高校に避難しているので、そう思うとやはり早修小学校の方が避難しやすく安全だと思う。
9	統合には賛成ですが、総合小学校の場所は中島小学校より早修小学校にして欲しい。
10	早修・中島小学校の統合場所は、早修小学校にして欲しい。
通学環境に関する整備について	
寄せられた意見（要約）	
1	適正規模化・適正配置を進めるにあたっては、通学路の整備について、誰もが納得できるよう完璧に整備してから統合をすること。
2	豊浜東小学校と豊浜西小学校の統合について、徒歩通学を学校から半径2kmの範囲とするのではなく、東豊浜町内から通学する児童については、通学路の危険性からスクールバス等の措置を講じて欲しい。
3	佐八小学校の子ども達がバス通学になると、学校前にバス停が必要だと思う。
学校の統廃合に伴う廃校施設の跡地利用について	
寄せられた意見（要約）	
1	学校施設の跡地活用については、その活用方法は各地域に考え方を委ねることだが、無責任だと思う。
2	統合後の廃校となる既存小学校は、災害避難所として活用し、その運用については、学校統合計画に遅れることなく開始し、市もその運用に大々的に関与し地元住民に負担を掛けないようにして欲しい。
3	今一色小学校は、地区の中心にあって、災害避難所となっている地域防災の拠点でもある。

統合校舎の場所の選定について	
寄せられた意見（要約）	
1	<p>神社小と大湊小の統合における学校用地の選定について、第一期（平成 24～28 年）の統合に向けた最大の課題が「学校用地の選定」と位置付け、3 ヶ月にわたって両学区内で適正な学校用地の調査を行った。その調査データをもとに検討した結果、統合・新築の諸条件をクリアできる可能性の高い建設用地として、大湊・馬瀬・下野の 3 町にまたがる候補地を選定した。</p>

3 市の考え方

市民から寄せられた意見についての市の考え方は次のとおり。

適正規模化・適正配置基本計画の進め方について

適正規模化・適正配置基本計画の進め方については、地域の実情も踏まえながら、PTA、保護者の皆様をはじめ、自治会等地域住民の皆様との十分な協議により、理解を求めながら進めていきたいと考えています。

統合校の設置場所について

統合校の設置場所については、児童生徒の安全・安心の確保と地域の防災拠点としての学校の果たす役割を最優先し、PTA、保護者の皆様をはじめ、自治会等地域住民の皆様の理解を求めながら決定していききたいと考えています。

通学環境に関する整備について

通学環境に関する整備については、地域の事情も十分把握した上で、遠距離通学になる場合の通学手段の確保や、徒歩通学におきましても関係部局が連携しながら通学路の整備について努めてまいりたいと考えます。

学校の統廃合に伴う廃校施設の跡地利用について

学校の統廃合に伴う廃校施設の跡地活用については、施設の状況や地域の意見を十分に考慮し、全市的な行政施策と調整を図りながら、防災拠点や地域コミュニティ醸成の場等、有効活用を図っていききたいと考えています。

統合校舎の場所の選定について

いただきましたご意見につきましては、統合校舎の場所の選定の参考にさせていただきたいと考えます。